

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201263		
法人名	北商株式会社		
事業所名	グループホームライフケア北倶楽部		
所在地	札幌市北区北28条西12丁目3-13 (電話) 011-708-8115		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年8月6日	評価確定日	平成19年8月17日

【情報提供票より】(平成19年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年4月7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1、2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	18,500円 (暖房費11月~3月) 6,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月21日現在)

利用者人数	6名	男性	4名	女性	2名	
要介護1	1	要介護2	3			
要介護3			要介護4	2		
要介護5			要支援2			
年齢	平均	78.6歳	最低	74歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団友善会宮の沢ファミリークリニック 新川歯科クリニック
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームライフケア北倶楽部は、運営者のこだわりから、建物は新築ではなく改造型とし、リハビリにも活用できるようにと、あえてバリアフリーではなく階段・段差のある造りにしている。そのため、ホーム内は自宅のような落ち着きがあり、居心地の良い雰囲気がある。利用開始前に1週間の体験入居を実施しており、入居後は、食事の際に管理者がテーブルの向かいに座り、話しかけながら馴染んでもらうようにするなどの配慮がなされている。比較的年齢の高い職員が多いことから、「利用者は敏感な方が多いので、自分が疲れていても顔には出さないように気をつけている」「利用者の表情から、何を希望しているのか察知するようにしている」など利用者本位の暖かくきめ細やかなケアが行われている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえて反省や改善に向けて具体的に検討し、殆どが改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施には職員全員で取り組んでおり、自己評価と外部評価の結果を踏まえて反省や改善に向けて具体的に検討し、実践している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年第1回目が実施されたばかりなので、ホーム側からの報告内容が主となり、参加者との意見交換までには至っていないが、今後は、サービス評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いするなどの取り組みを予定している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めているが、利用者や家族からの不満や苦情を聞き取る機会はありません。今後は、定期的なアンケートなどを検討し、実施していくことを予定している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、班単位の掃除当番やゴミステーション管理を担当しており、夏祭りなどの地域行事にも積極的に参加している。回覧板で知った習字教室に、職員と利用者が一緒に参加したこともある。近所の公園へ散歩に行く際は、ゴミ袋を持参し、公園周辺のゴミを拾うのが習慣となっているなど地域との連携は深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を反映した理念にするために、本年度から、「地域や自然と共に生きてほしい」の表現を加えた新しい理念をつくりあげたが、ホーム内にはその部分が掲示されていない。	○	新しくつくり上げた理念全体をホーム内に掲げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の新規採用時の研修に理念を伝え、理解してもらっている。また、リーダーは、毎週本部で開催されるチーフ会議に出席して理念を再確認し、ホームでの毎月のスタッフミーティングで全職員に伝えている。日々のミーティングでも折につけ具体的なケアと理念とのかわりについて話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、班単位の掃除当番やゴミステーション管理を担当しており、夏祭りなどの地域行事にも積極的に参加している。回覧板で知った習字教室に、職員と利用者が一緒に参加したこともある。近所の公園へ散歩に行く際は、ゴミ袋を持参し、公園周辺のゴミを拾うのが習慣となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施には職員全員で取り組んでおり、自己評価と外部評価の結果を踏まえて反省や改善に向けて具体的に検討し、実践しているが、毎年実施できていなかった。	○	自己評価、外部評価を毎年計画的に実施していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年第1回目が実施されたばかりなので、ホーム側からの報告内容が主となり、参加者との意見交換までには至っていない。	○	今回のサービス評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いするなどの取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者とは必要の都度連絡を取ってはいるが、市の窓口を訪問して情報提供を行うなどの取り組みはない。	○	市の窓口を、無理のない範囲で定期的に訪問して情報交換を行ない、市と協力してサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の状況について話し、個別に電話で連絡をしている。毎月1回「北倶楽部通信」と、職員の支援のもとに利用者自身が書いた手紙を家族宛に郵送している。お小遣いの出納明細については毎月家族の来訪時に確認してもらい、領収書を渡している。	○	今後は、定期的に、お小遣いの出納明細のコピーに領収書を添えて、家族宛に郵送することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めているが、利用者や家族からの不満や苦情を聞き取る機会はあまりない。	○	家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、定期的なアンケートなどを検討し、実施していくことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設時には職員の離職もあったが、現状では殆どない。1ユニットのため職員の異動もほとんどない。職員が退職したり新しい職員が入った場合は、利用者へ個別に説明している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で、毎月1回スタッフミーティングの後に勉強会が行われているが、現在、勤務ローテーションの関係もあり、職員の育成のための計画的な外部研修プログラムは実施されていない。	○	市の窓口や、管理者会議などで、勤務ローテーションに無理がないような半日程度の外部研修の情報を入手し、段階的に研修の機会を確保していくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、管理者が2ヶ月に1回、管理者会議に参加しているが、全職員が地域の同業者と交流を深めるには至っていない。	○	管理者会議で知り合った管理者同士で話し合い、互いのグループホームを職員が訪問しあう取り組みを検討していくことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族等には必ずホームを見学してもらっている。また、1週間の体験入居を実施している。入居後は、食事の際に、管理者がテーブルの向かいに座り、話しかけながら馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の思い出話や昔話を教えてもらうことで学ぶことが多い。料理の味付け、ホーム菜園の肥料のやり方なども利用者に折につけ尋ね、教わっている。利用者が職員の肩を揉んでくれることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、顔色、表情、様子などから一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、把握しようと努めている。ホームでの喫煙は自由であり、タバコ好きな利用者は居室以外の指定の場所でタバコを楽しんでいるが、空気清浄機はあまり利用されていない。	○	煙の嫌いな利用者の視点に立ち、喫煙場所や喫煙環境の配慮などの検討を期待したい。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、家族や関係者の気づきや意見を反映した介護計画を、全職員で話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに定期的に見直している。また、入院・退院時など、心身の状況に合わせて、利用者、家族と相談して随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が同行できない場合は病院等への送迎を行っている。利用者の要望に応じて、家族の家、海や山、山菜採りなどにも車で連れて行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する医療機関の利用を原則としている。協力医が2週間に1回定期往診している。要望があればほかの専門医の紹介もしているが、現在のところ、ほかの医療機関を利用している例はない。歯科医も随時来診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化と終末期の対応に付いての合意を書面で得ている。状況の変化があればその都度再確認し、必要があれば変更している。以前、末期がんの利用者が当施設で最後を迎えたことがあり、この時、職員、家族、主治医が協働で対応し、無事に見送った経験がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務については利用契約書と運営規定に明記し、職員に徹底している。個人の書類は全て事務所内で取り扱っており、プライバシーに付いては入社研修で指導している。排泄の誘導や利用者の名前の呼びかけなどにも配慮している。	○	家族来訪者の受付簿は現在、複数が一欄で記入するようになっているが、これを一人一葉とし、記入した毎に事務所に回収保管するように、改めるよう、期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけルールを設けないことを原則としている。起床、食事、就寝などの時間は、必要に応じて声かけはするが、本人の自由である。飲酒は医師の禁止がなく過度に至らない限り、喫煙は所定の場所とする限り、自由に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けには、利用者も参加し、職員も一緒にテーブルに着いて食事をし、ともに楽しんでいる。メニューと食材は業者に委託しているが、ホーム側の要望に沿うようにしてもらっている。個別に希望する利用者にはパンやおかゆの提供もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎週月、木の週2回、9:00~15:00となっているが、要望があれば曜日・時間帯にこだわらず、応じることにしている。ただし、現状では所定以上の入浴希望はなく、入浴拒否の利用者に週2回なんとか入ってもらうことを目標としている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人の好みに応じて、トランプ、カラオケなどのレクリエーションを支援している。夏場は週1回ぐらい散歩を実施している。また、雑巾縫い、小鳥や金魚の飼育、野菜畑の世話など、各人の楽しみの活動を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は月1回以上、花見やお祭りなど、遠方に出かけ、週1回は近くの公園へ散歩に行く。希望によって洋服・電気製品の買物に同行することもある。普段は外の野菜畑や庭のベンチで気軽に戸外の空気を吸ってもらうようにしている。	○	管理者が、公共交通機関を利用しての外出にも熱意を持って取り組んでいるので、今後も引き続き取り組んでいくことを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠せず、職員の見守りとチャイムで安全を確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災と地震を想定して年2回、定期的に避難訓練を行っている。管理者が、赤十字の救護講習を受講している。町内会の班長には、非常時の支援を依頼してある。	○	運営推進会議で災害対策を議題に挙げて話し合うことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は、食材委託先の業者で行っており、随時、本部で栄養士がメニューをチェックしている。残食状況はチェックして記録している。定時に水分補給する時間を設定しているが、記録は取っていない。	○	水分摂取に付いても、概算量を記録に残すよう、期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元がすし店舗を改造した建物であり、新築にはない馴染みやすい雰囲気がある。時節柄七夕の飾りがしてあり、壁の張り出しや装飾品など、季節感のある、程よい刺激と明るい雰囲気をかもし出す工夫が見られる。一方、風呂、トイレは新しく、清潔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、ベッド、暖房具、照明具は施設の備品であるが、希望に合わせて和風にしつらえるなど、本人が居心地よく過ごせるよう、配慮している。家具、電化製品、装飾など、なじみの品が豊富に持ち込まれて、落ち着いた雰囲気を作っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。